

ふんいきり人。



おおかわ みちこ
大川 道子さん

社会福祉法人鹿嶋市社会福祉協議会
指定居宅介護支援事業所ウェルポート鹿嶋の郷
主任介護支援専門員



ウェルポート鹿嶋の郷は、全国でも数が少ない社会福祉協議会が運営する高齢者福祉施設です。特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンターに加えて、指定居宅介護支援事業所などで構成され、大川さんは指定居宅介護支援事業所でケアマネジャーとして勤務しています。ケアマネジャーとなって22年、同施設に勤務して6年目となる在宅介護支援のエキスパートです。大川さんが介護の仕事に就いたきっかけは、29年前に医療事務の面接に行ったことからでした。「最初から福祉の仕事をしたかったわけではなく、医療事務の面接を受けに行き、系列の高齢者施設の介護現場を見学したことがきっかけで、介護の仕事に興味を持ちました。知識も技術もゼロの状態でしたが、とりあえずやってみようと思い就職。数

年後には介護福祉士の資格を取得しました。高齢者施設を見学して、人に関われる仕事に好感を持ったことが福祉の仕事を始めの一番大きな理由でした」と話しています。

「やりがい大きいので常にポジティブ」

現在は3人のケアマネジャーで、100人超の在宅の高齢者を担当しています。訪問診療や訪問看護、訪問介護、デイサービス、福祉機器など必要に応じて提案し、在宅の高齢者や介護をする家族の生活の質がより良くなるように支えています。大川さんのやりがいは、「ケガや病気で歩けなくなった利用者さんが、頑張って歩けるようになった時には、自分のことのように嬉しいです。利用者さんも相当の努力をして回復していることに感動し、

「人を支え人に支えられている仕事」



それがやりがいになっています。大変だと思うことよりも、やりがいの方が大きいので、常にポジティブに考えています」とのこと。

大川さんが心がけているのは、本人がどのような生活を送りたいのか、本人の意向だけではなく家族の意向も確認しながら支援することです。その根底には、「人生の最終段階を迎えるなかで、時に本人や家族に悔いが残らないように支援をしていきたい」という思いがあります。在宅での看取りも増えている傾向で、自宅で最期を迎えたい方に、訪問診療や訪問看護、必要なサービスをつないでいくことも重要な仕事となっています。

「『ありがとう』の言葉が福祉の仕事の魅力」

福祉の仕事の魅力をたずねると、「同じ環境、同じ身体状況の利用者はいません。利用者や家族で金銭的、あるいは精神的に余裕がない場合もあります。その中で最良のケアプランを提供して、『ありがとう』と言われた時に達成感が生まれるので、それが私の感じる福祉の仕事の魅力です」と話してくれました。「ありがとう」の言葉は、人を幸せにするので、いつも感謝の気持ちを忘れずにいたいという大川さんです。



「資格を取りながらやりたい仕事を見つけよう」

福祉の仕事を目指す人へのメッセージは、「高齢者福祉の仕事は、様々な対人支援がある中で、少子高齢化が進んでいることから需要が高まっています。福祉はハードワークな印象がありますが、仕事の内容も多岐にわたります。私の勤める居宅介護支援事業所のケアマネジャーなど、資格を取得しつつ自分の向いている仕事を選択できるのも魅

力です。また、最近はライフスタイルに合わせた働きやすい環境が整ってきていると思います」と、福祉の仕事を目指す人にエールを送ってくれました。



「鹿嶋市で 福祉のまちづくりを進めたい」

同施設では鹿嶋市からの委託事業で家族介護講座にも関わっています。各公民館で介護について知りたいことを聞き、その内容に合った講座の企画をしています。たとえば、介護保険制度について、福祉機器の選び方、楽しく脳を活性化する体操「脳活性化体操」「もしバナゲーム※」、高齢者に多い病気や看取りについてなど様々です。その他相談にも対応しています。さらに県社協の福祉キャラバン隊事業として、市内の小中学校に出向いて福祉の話をしています。「居宅介護支援事業所のケアマネジャーだけでなく、社協の職員として、誰もがその人らしく安心して暮らすことのできる、福祉のまちづくりに貢献していきたい」というのが、大川さんの今後の目標です。

※「もしバナゲーム」とは、人生の最期にどうありたいか、カードを用いて考えたり、話し合うゲームです。

